

吉野川と地域文化・景観を 考えるワークショップ

平成 21 年 9 月 28 日発行

第2回ワークショップを開催しました！

地域文化・景観に配慮した堤防整備のための「吉野川加茂第二箇所 吉野川と地域文化・景観を考えるワークショップ」の第2回目が、平成21年9月13日（日）に開催されました。

日時 平成21年9月13日（日） 10:30～14:20 **主催** 吉野川中流域地域文化・景観懇話会

場所 現地視察会：興聖寺裏地区、高島・こまた地区 話し合い：東みよし町役場2階多目的ホール

テーマ 「自分にとっての『大切な地域文化・景観』について考える」

参加者 東みよし町の方々 19名

プログラム

1. 当日のスケジュール説明
2. 現地視察会
3. 第1回ワークショップ、こどもワークショップの報告
4. グループに分かれての話し合いと発表
5. 次回の連絡
6. 閉会



本ワークショップは、「吉野川中流域地域文化・景観懇話会（会長：山中英生 徳島大学大学院教授）」が主催しています。第2回ワークショップには、懇話会から、大谷國廣委員、川原勝市委員、三好末吉委員、前田安夫委員も参加しました。ワークショップ開催にあたっては、徳島大学地域創生センターが地域貢献事業として協力しています。

現地視察会では吉野川沿いを歩きました

現地視察会では、吉野川やその周辺において、昔から変わってしまったこと、変わらないことを歩いて確認しました。吉野川を久々にじっくりと眺めると、たくさんの変化が発見されました。

変わったこと

- 綺麗だった竹林が荒れてしまった。
- 水量が減り、水面下にあった岩が見えるようになった。
- 吉野川近くのお墓の数が倍近くになった。
- 渡しへ行く道が広がった。
- 十数年前に始まった地元ボランティアによる木の伐採やゴミの処理活動により、一時期より吉野川がきれいになり河川敷に人が集まりだした。 など

変わらないこと

- シンボルになるような大きな木があること。 など
- 対岸の山の風景。 など

北岸 南岸

むかし



いま



現在では、河原が狭くなり、ずいぶん様子が変わっています！



今回のみなさんの話し合いによって浮かび上がってきた大切なもの・大切にしたいもの

● 河畔の竹林

竹は、竹かごや土壁の心材として、暮らしの中で様々なものに利用されていた。しかし、近年では利用されず、放置され荒れてしまっているため、手入れされた竹林を取り戻したい。

● 吉野川らしい風景

昔のように水遊びができるきれいな吉野川の風景や、沿川の竹林やクヌギ林、広い河原などの対岸から眺められる吉野川らしい風景を大切にしたい。

● かんどり舟を泊めることのできる場所

昔は川の水位が上がった時に流されないように、仲間同士で一箇所に固めて置いていた。川を利用しやすくするためにも、かんどり舟の停泊場所を確保して欲しい。

● 地域の歴史と深い関わりを持つお地蔵さん

洪水など川によって被害を受けたという歴史を伝えていくために大切にしていきたい。

● 「小山が鳴ったら大水になる」、「こまたが落ちる」などの川に関する言い伝え

言い伝えからは、川とどう向きあってきたかという歴史が分かる。そのことを忘れないために、言い伝えに関連のある場所も残しておきたい。

● 昔、主要道であった不動の渡し・赤池の渡しへと続く道

対岸に渡るために利用していた不動の渡し・赤池の渡しへと続く道は地域でも重要とされていた。今の子供たちが川と接しやすくするためにも残していかなければならない。

● 東みよし町と関連している遺跡や埋蔵文化財

工事の時に出土したら町内に残して欲しい。

など

みなさんの話し合いから、竹林や広々とした河川敷といった吉野川らしさ、吉野川やその周辺の歴史や、暮らしの中での吉野川の利用など、吉野川と人々との様々な関わりを大切にしていきたいということが分かりました。

ワークショップ 参加者の声

ワークショップを終えた
参加者のみなさんの感想をご紹介します！

- 離れていた川への思いを再び川へ向けることができた。
- 家庭排水や工業排水など、吉野川自体が受けているストレスを緩和して、子供の頃慣れ親しんだ清流を取り戻したいと思った。



編集後記

今回は実際に地域のみなさんの話を聞きながら歩いてみました。みなさんが楽しそうに思い出話をされている姿から、この場所は地域の方々にとって大切な場所であると同時に、大好きな場所でもあるのだということを感じました。これから先のワークショップでは、みなさんが大切に思っている吉野川の良さをどのような形で残していけるのか、一緒に話し合っていければいいなと思いました。

北村 征也